みなまた海のこえ

カラリカえんえん しゅうリリえてててている。お今次の折りは、どんなきまでかり、

作/石牟礼道子 絵/丸木 俊・位里 絵本「みなまた海のこえ」より〈小峰書店刊〉

題字/渡部 清 デザイン/遠藤 智制作/おとのは ことのは

出演~おとのはことのは~ 語り/遠藤真弓 鳴り物音楽/馬場清則

公演日 2008年8月19日(火)~24日(日) (時間は裏を参照)

場 所 中野 り 劇場 M O M O (JR中野駅南口より徒歩5分)

チケット 前売り・当日 2,500円 (日時指定・全席自由)

7月15日前売り開始

楽し い舞台になるといいですね…」

お会いする度、 石牟礼さんは静かにそうおっしゃいます

土の

)埋もれていないところは多いですが、こちらももう)熊本は民族的な話や伝統が多いところですね 伝えることができていたと思うのですね。 消えてしまっていますから。 伝えていく人達が居なくなってしまいました。 風土の韻というものがあると思うの 日本人にはそれを 伝える土壌が

人間はなにかの命をもらってこそ生きる事ができる、 精霊と言ってもいいですよね。 れませんが、 同属意識というか、

『妖怪 たちが居た時代』 の風景」

作品の中に人間以外のものを出さないと自分が生きて

ガァジィ」って(笑)。そう、あんまり怖くはないんです 子供が遅くまで外で遊んでいれば 『われてました。怖いんだけど、どう咬むのかというと「ガァジィ し、そういう深い (妖怪たちと よ(笑)。

岡田和夫 澤 礼子 泉 淳

作り出せないですよね

この作品を舞台にするというのは難し

あんまり考え込まない

感覚的におやりになれば いだろうなって思います

音楽監修

照明

演 技

舞台監督

観ている方が楽しんで頂ければいいですよね

石牟礼道子さんとのおはなしより

工地の呼吸であったり山の呼吸であったり、切り離された音では

山の声というか、

水の声というか、声ですね。

人間以外のものが感じられるその豊かな土壌を表す

現代人はそれを忘れて科学的に考えて、

何でもあるぞって言っ

てますけど、心を委ねたり委ねられたりというのは、科学では

田島美津子 協力 読売新聞社東京本社 後援 水俣市教育委員会

武田

桑原

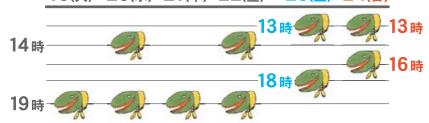
【あらすじ】「みなまた」を教訓に

ゆり神山のお使い「きつねのおぎん」、孫娘「おちゃら」を連れて語りだす。 い不知火の海や山に住む動物、木々、草花、豊饒な海の魚たち、 井川(泉)に水を汲みに来る村人たち、夜を闊歩する妖怪たちの日々。 みんな一緒に生きていた…。

「会社」が来た。小さな村は町になった、町になった…。 人々は踊った…。「あんなこと」になるとは知らずに…。

2008年8月

20(水) 21(木) 22(金) 19(火) 23(±)





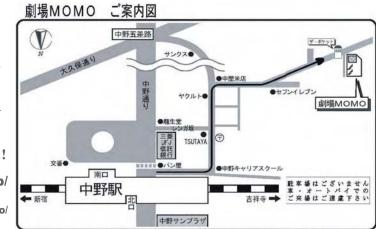
で、音を語る二人舞台 葉を奏

~おとのはことのは~ 遠藤真弓 語り 馬場清則 「おとのはことのは」で検索!

http://otokoto.2-d.jp/

パソコン版ブログ http://plaza.rakuten.co.jp/otokoto/

● 携帯版ブログ http://plz.rakuten.co.jp/otokoto/



【チケット取り扱い】 馬 場 企 画 http://babakikaku.net ※ 住所、氏名、電話、観覧希望日時、枚数を必ずお知らせ下さ